

私たちの活動や意見を  
仲間で共有します  
会費は県と日本平和委  
員会の活動も支えます

# 土浦平和の会ニュース

発行：土浦平和の会  
事務局：土浦市神立町2664  
ホームページ：[//heiwatutiura.web.fc2.com/](http://heiwatutiura.web.fc2.com/)

## 市民生活が監視される共謀罪に 反対！共同センターが市議会陳情

土浦平和の会など8団体が構成員となっている「憲法を守り・いかす土浦共同センター」は3月2日、土浦市議会に、「『テロ等準備罪』を新設する組織犯罪処罰法改正案に反対する意見書提出を求める陳情書」を提出しました。

これは、今、国会内外で問題視されている「共謀罪」の内容を盛り込む法案の上程、審議、可決に反対する意見書を土浦市議会が衆参両院議長と首相宛に提出することを求めたものです。

### なぜ反対するのか

私たちが反対する理由は以下の通りです。

①政府が共謀罪の内容を付加することの理由に「国際的な組織犯罪の防止に関する国際連合条約」を批准するためには、共謀罪の設置が必要なことを挙げていますが、既に整備されている国内法で事足りるというのが大方の学者、政治家の見方であること。

②共謀罪が法定されると、個人の会話や通信までもが取り締まりの対象となり、市民的自由が

大幅に制限され、権力（警察・検察）による監視社会になってしまう恐れが大いにあること。

③「組織的犯罪集団」や「準備行為」の定義があいまいで、権力による恣意的運用になりやすいこと。

④そもそも今批准しようとしている国際条約は、テロ等を目的とした組織を対象としているのではなく、「金銭的利益その他の物質的利益を得る為の犯罪を行うことを目的として一体として行動するもの」すなわち人身や大麻等の売買を目的としたマフィアなどを指すとされていること。

### 共謀罪とは

共謀罪とは、具体的な犯罪について、2人以上の者が話し合っ

て合意するだけで処罰することができる犯罪のことです。

政府はこれまでも共謀罪の法定化を狙ってきましたが、野党と市民の反対行動で3度（2003、2005、2009年）廃案になっているものです。

### 日本の刑法原理

犯罪は、人の内心で生まれ、共犯の場合は共犯者との合意を経て準備され（「予備」）、実行に着手され（「未遂」）、実行結果が生じ（「既遂」）ます。

日本の刑法は、「既遂」処罰を原則としています。法律で保護された利益（法益）を現実に侵害して、結果が発生した場合に処罰するとしています。

ですから、「未遂」が処罰の対象となるのは、例外的に法律に

### 県市民連合主催 講演と予定候補政策フォーラム

4月15日（土）午後 時～ 時

県総合福祉会館（水戸市千波町）

講演：山口二郎法政大学教授

特定されています。このように、「未遂」を例外扱いし、刑罰の軽減を認めていることから、「罪を犯そうとする危険な意思」を処罰するのではなく、「法益侵害の危険性を発生させたこと」を処罰すると考えられています。

「予備」の処罰は、未遂よりも更に例外的で、殺人・強盗・放火等の重大な犯罪に限って規定されています。

ちなみに、日本には既に、重大な法益を侵害する犯罪について、例外的に陰謀罪8、共謀罪15、予備罪40、準備罪9が法定されています。

## 政府案の危険性

今問題になっている「共謀罪」は、「予備」の前段階の「危険な意思の合意」を処罰するものと言えますが、現行では、前述のように、特例15罪に限定されています。ところが政府の最新案ではこれを277の罪に拡大しようというのです。

## 市民監視社会に

「共謀罪」がテロ等の凶悪犯

罪に限定されることなく拡大されれば、「共謀」の証拠をつかむために、個人の日常の会話や電話、メール等が盗聴・盗撮の対象となり、あるいは、犯罪集団と目された組織には警察のスパイが潜入するなどの行為が公然と行われることとなります。市民の自由な会話や議論、交流ができなくなる市民監視社会が到来するのです。

そうさせない為に、署名等で早急に導入反対行動を強めていきましょう。

(この記事の出典は日本弁護士連合会発行パンフです)

2月11日、私は「百里初午まつり」に参加しました。延々と続く百里基地のフェンス沿いの細い道をしばらく走った先に百里平和公園がありました。戦後、開拓した農地を基地に売らずに、巨大な誘導路を「く」の字に曲げさせた百里基地反対闘争のシンボリックなその場所は、地元や関係者のみなさんの献身的なお力により整備され、真っ赤な鳥居の下には焚き火があかあかと燃え、各種団体の皆さんが受付や模擬店の準備に忙しく働いていました。

私たち「かすみがうら9条の会」も甘酒と地元産のハッサクを売る模擬店を出しました。県内各地や東京などから約300名が集ったこの日は、晴天でしたが冷たい風が吹いていたこともあって、あたたかな甘酒や豚汁、焼き芋、モツ煮などが飛ぶように売っていました。隣の店には露のとうやさつまいもなどの野菜や手作りこんにゃく、干し芋、漬物などの農産物加工品が数え切れないほどに並べられ、大鍋からは湯気が立って、お客さんが沢山並んでいます。聞き覚えのある呼び込みの声に目を向ける、なんとお店のご主人は若い頃に高教組でお世話になったNさん、20数年振りのうれしい再会でした。

リレー随想

### 百里初午祭りに参加して

やがて歌声が響き、大地の恵みである赤飯や祝い酒が振舞われ、お祭り気分が盛り上がるなか、百里基地反対闘争60周年にあたる記念すべき式典が始まりました。色々な方の挨拶を聞きながら、「60周年といえば65歳の私の人生とリアルタイムで重なっていたはずなのに、基地反対闘争も航空自衛隊の広大な基地と滑走路が広がるこの光景も、今まで身近に感じなかったのはなぜだろうか。ここから

たった30キロしか離れていない隣村で生まれ、県内の学校に進み、定年まで勤めてきたというのに、どんなに大きな出来事でも見ようとしなければ見えない。まして意図的に目を背けては何も分からないのだ。」という後悔の思いが募りました。人生の後半期を迎え、もう手遅れでしょうか。否、「百里初午祭り」は平和を守ろうという思いを持つ人を、いつでも、誰でも受け入れる懐の深さを持って歴史を重ねてきたのです。私はこれからも仲間と共にこの祭りに集い、大いに楽しんで明日への元気を蓄えて行きたいと思います。

(石井ヒロ江)